

学校だより松野尾



No. 9

令和7年10月31日
発行 新潟市立松野尾小学校

縦割り班で育てる思いやりと責任感 ~なかよし班の一年~

生活指導主任 賀田 亜弥

本校では、「豊かな人間性」を育み、「協働しながら新たな価値を創造する」温かな人づくり、人間関係づくりを異学年で構成された縦割り班（なかよし班）活動で行っています。今年度も、なかよし班のさまざまな活動を通して、子どもたちの間にたくさんの笑顔と温かなつながりが生まれています。

なかよし班の活動は、4月の顔合わせからスタートします。1年生から6年生までが一つの班を作り、自己紹介やゲームを通して親睦を深めました。顔合わせ後、なかよし班で取り組む週2回の清掃活動が始まりました。学校のさまざまな場所を分担し、協力しながら掃除をします。6年生が下級生に掃除の仕方や道具の使い方を優しく教える姿はとても頼もしく、まさに縦割り班ならではの学びの場となっています。掃除という日常の中にも、思いやりや責任感、協力の大切さが詰まっています。子どもたちの成長を感じられます。最初は緊張気味だった1年生も、やさしく声をかけたり、教えてもらったりすることで次第に安心して過ごせるようになっていきました。

さらに、昨年度からは「なかよし班タイム」がスタートしました。班ごとに内容を考え、校庭や教室で花いちもんめ、おにごっこなどの遊びを楽しむ時間です。年齢の異なる友達と一緒に遊ぶことで、新しい発見や学びがあり、ここでも、子どもたちは自然と協力する態度や思いやる心を身に付けています。

また、今年度は全校で「芋ほり体験」も行いました。なかよし班ごとに畑に入り、さつまいもを掘る活動では、土の中から大きなお芋が出てくるたびに歓声が上がりました。下級生が困っているときには、上級生が手を貸して掘りやすい場所を教えたり、道具を使って一緒に掘ったりと、協力し合う姿がたくさん見られました。自然と触れ合いながら、班での絆もさらに深まったように感じます。



このように、なかよし班での活動を通して、子どもたちは学年の枠を越えてつながりを深めています。特に最上級生である6年生にとって、班をリードする中でリーダーシップや人の思いやる心が自然と育まれていく、大切な時間となっています。今後も、縦割り班活動を通じて、学校全体で子どもたち一人ひとりが「豊かな人間性」を育み「協働しながら新たな価値を創造する」温かな人づくり、人間関係づくりを進めていきたいと思います。

11月の行事予定

1 (土)	創立 150 周年記念式典&文化祭 下校 11:45	11 (火) 12 (水) 14 (金) 17 (月) 20 (木) 26 (水)	なかよしタイム Well-Being Day 下校 13:15 避難訓練（不審者対応） 委員会 4学年 PTA 学年行事 Well-Being Day 下校 13:15
4 (火)	振替休業日		
5 (水)	Well-Being Day 下校 13:15 5学年 PTA 学年行事		
10 (月)	元気アップ・学びアップ週間(12日まで) クラブ（3年生見学）		

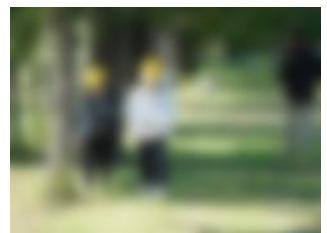
R7年度 生活科・総合的な学習の時間

1年 生活「あきとともにだち」

秋になり、周りの様子が夏とは変わってきたことに気付いた子どもたち。きずなの森や上堰潟公園に行って、「秋探し」をしました。たくさんの秋を見つけたので、拾った葉っぱやどんぐりを使って造形遊びをしました。また、春から観察を続けてきたアサガオも枯れたので、思い出につるでリースを作りました。身近な自然から季節の変化を感じ取り、豊かな心を育めるような学習をしていきます。

上せきがたこうえんに、あきを見つけていきました。きいろいはっぱがいっぱいあって、すてきでした。つながっているはっぱもありました。どんぐりもいっぱいあって、60こちかくひろいました。どんぐりでコマをつくってあそびたいとおもいました。

1年 Yさん



2年 生活「おいしいやさいをそだてたい」

キュウリやミニトマト、ナスなどの野菜を、自分たちの手で育てました。苗を植える時は地域の方に教えてもらい、上手く植えることができました。地域の方に質問したり、アグリパークに行って野菜を観察したりして、おいしい野菜の育て方を学びました。子どもたちにとって、身近な作物の成長に喜びを感じる経験となりました。

うれる時は、かずおさんに教えてもらって、うまくできました。いっぱいそだってほしいと思いました。アグリパークに行って、野さいのべんきょうをしました。ここには、色々な野さいがたくさんありました。そして、ぼくがえさをあげた牛も、たいひを作ってくれていると知っておどろきました。

教えてもらったコツを生かしたら、学校のキュウリやミニトマトがたくさんみのって、うれしかったです。

2年 Aさん



3年 総合「上堰潟はかせになろう」

松野尾の誰もが知る大きな公園ですが、子どもたちにとっては知らないこともまだたくさん。実際に行ったり、講師のお話を聞いたりして、もっともっと上堰潟に詳しくなり、上堰潟はかせを目指しています。

田ぶねにのせてもらいました。風が強くて、船頭さんが二人でこいでくれました。のってみたら、ゆらゆらしていて少しこわかったけど楽しかったです。田ぶねにのつて生活していたむかしの人たちは、すごいなと思いました。上せきがたのことについて、もっといろいろ知りたいです。

3年 Aさん

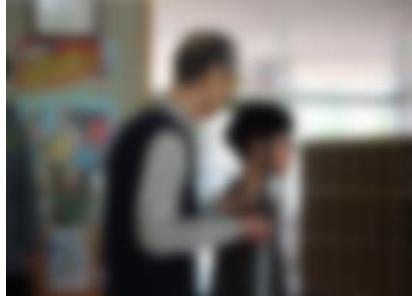


4年 総合「わたしたちにできること」

福祉について学んだことを生かして、誰もが暮らしがやすい地域にするために、自分たちにできることを考えています。

ハンディキャップ体験でお年寄りの方がどんなふうに見えたり聞こえたりするのかが分かりました。軍手を重ねてサングラスをかけると、うまく折り紙が折れなくてこまりました。でも、ぼくが折れるように、友達が声をかけ、手伝ってくれてうれしかったです。これから、お年寄りや体の不自由な方がいたら、何ができるか考えて、手助けをしたいなと思いました。

4年 Iさん



5年 総合「未来につながる松野尾の食産業」

お米作り体験、ボイセンベリーの収穫体験、笹祝酒造の酒蔵見学などをとおして、松野尾ならではの食に関わる産業について、理解を深めています。



ぼくがボイセンベリーについて知ったことは、ボイセンベリーを作る大変さです。ボイセンベリーを作るには水はけのいい土地ではないといけないし、冬を越えないと実がならないそうです。健康にもいいので、もっとたくさんの人に知ってほしいです。

5年 Iさん

6年 総合「大好き松野尾～松野尾のよさを見つけよう～」

松野尾の歴史について、ゲストティーチャーからお話を伺ったり、現地に赴いたり史跡を巡ったりしながら学んでいます。松野尾が歴史ある地であることを再認識しています。



仙城院の本堂でお話を聞きました。仙城院は320年前に作られて、昔はみんなが勉強する場所だったということをぼくは初めて知りました。

昔、松野尾の人と松山の人気がもめてしまうくらい水が貴重だったこと、お米も貴重だったことにおどろきました。

6年 Yさん



「プラス思考で前向きに」

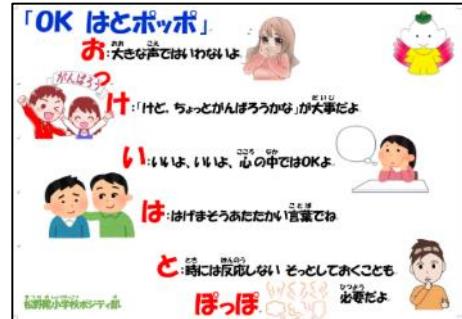
ポジティイ部主任 小林 朗子

私たちは、誰でも何かしら好きなことや得意なことがあります。苦手なこともあります。また、同じ出来事や状況でも、人それぞれ感じ方が違います。それは、脳の働きが一人一人異なり、これまでの経験や育った家庭環境も違うからです。

松野尾小学校の76人には、76人それぞれの違い（個々の特性）があり、違うからこそ、学校という場所でのかかわりや学びに意味があります。私たち職員は、子どもたちが声に出す言葉が、「ありがとう」「大丈夫」「まあいいか」「でも、がんばる！」「やってみよう」などの前向きな言葉になり、それが前向きな行動につながると信じ、今年度も取り組んでいます。

心の中で何を思うかはその人の自由です。それが、マイナス言葉や荒々しい言葉のときもあると思います。子どもたちには、昨年度より「OK はとポッポ」という合言葉で、思ったこと、感じたことを全て言葉や行動で直接的に表現するのは配慮が必要だと伝えています。たとえマイナス感

いつでも どこでも だれにでも プラス思考・前向きさ指標	
①やる気まんまんで いっしょに取り組んだ	◎ すぐできた ○ できていたことが多い △ 取り組めなかったときが多くない ▲ 取り組めなかったときのほうが多い
②マイナス言葉は声で口に出して言わ ない心の中にだけとめておくことが できた。	◎ すぐできた ○ できていたことが多い △ 言わねていれたけど、言ってしまったことが同じくらい ▲ 言ってしまったときのほうが多い
③苦手なこと、やりたくないことで も、半分はやった。	◎ どんなときも、半分(半分より多く)はやれた ○ 半分より多くやれたごとのほうが多い △ 半分やれたときと、やれなかかったときが同じくらい ▲ やれなかかったごとのほうが多かった
④「だいじょうぶだよ」「できるよ」「 いっしょにがんばろう」「 もうちょっとだ」など 励ます言葉を友達にかけられた	◎ すぐできた ○ できていたことが多い △ 答えたときと、感ったけど言えなかつたときが同じくらい ▲ 言えないごとのほうが多かった
⑤マイナス言葉に反応しないで、 自分は一生懸命取り組んだ	◎ マイナス言葉が聞こえても、いつもいっしょいけれ んめいに取り組んだ ○ マイナス言葉が聞こえても、いっしょに取り組め ないことが多い △ マイナス言葉が聞こえて、いっしょに取り組め ないときと続かないときが同じくらい ▲ マイナス言葉が聞こえて、いっしょに取り組め ないなくなったごとのほうが多い
⑥マイナス言葉を、みんなに言ってしまったあとに、「はっ！ しまった」と自分で気づいたり、友達や先生に「やめろ」「マイナス発言よくないよ」などと言われたりしたときに、自分のマイナス発言をまちがいとして素直に認められた（まちがいと分かったことを「こめんなさい」や「はい」などと返事をうなずいて示すことができた）	◎ マイナス発言をしないように気をつけてマイナ ス言葉を使わなかった。 してしまったときは、いつも、すなおにみとめられ た、まちがいと分かったことを返事をやうなずいて 示すことができた。 ○ まちがいと分かったことを、すなおにみとめられ た、まちがいと分かったことを返事をやうなずいて示す ことができる。 △ まちがいと分かったことを、返事をやうなずいて示す ことができる。 ▲ 「やめて」「よくないよ」と言われたときに、マイナ ス言葉をいかえず、相手がいやがる格好を するなど、よくないいたどをとったごとのほうが 多い



情であっても、「自分はこんな気持ちでいるんだ」と気付くこと（認知）は大切で、「めんどくさい」「やりたくない」などの感情が出てくるのは「当たり前」「仕方ないこと」という大前提を子どもたちとは共有しています。今年度は、そんなときにプラスの感情に切り換えるために、集団の中でこうするとよいという姿を、子どもたちにわかりやすく具体的に示しました。

行事や日々の活動の中で、なりたい自分や、めざす姿をもたらすと同時に、左記の指標をもとに時々振り返っています。

松野尾の子どもたちは素直で打てばひびく子が多いです。私たち職員は、「小さなできていること」「当たり前にできていること」にもスポットを当て、子どもたちに前向きに働きかけています。

学校を超えて、子どもたちにかかわるすべての大人が、プラス思考で、声に出す言葉は前向きに！ 明るく元気さ増し増しで、ハッピーな松野尾でありますように！